



タイリクヒメハナカメムシに対する インプレッション水和剤およびスカッシュの影響

表 タイリクヒメハナカメムシに対するインプレッション水和剤およびスカッシュの影響^{a)}

薬剤名(希釈倍率)	補正死虫率 ^{b)} (%)
インプレッション水和剤(1,000倍)	0.0
スカッシュ(1,000倍)	10.1
スカッシュ(5,000倍)	2.6
インプレッション水和剤(1,000倍)+スカッシュ(1,000倍)	3.8
インプレッション水和剤(1,000倍)+スカッシュ(5,000倍)	3.1
対 照 ^{c)}	20.0 ^{d)}

a) 試験は供試虫(成虫)を薬液に5秒間浸漬させる虫体浸漬法で行い、処理後25℃、16L-8Dの条件下で飼育し、1日後に生死を調べた。タイリクヒメハナカメムシは、住化テクノサービス社製のオリストA。

b) 補正死虫率(%) = [(無処理区生虫率 - 処理区生虫率) / 無処理区生虫率] × 100

c) イオン交換水に浸漬処理した。

d) 死虫率を示す。

促成栽培ピーマンなどのIPM体系では、アザミウマ類防除のためにタイリクヒメハナカメムシ(以下;タイリク)が広く利用されています。一方、うどんこ病などの病害に対しては、微生物製剤であるインプレッション水和剤の散布が有効ですが、本剤は葉斑を生じるため、葉斑軽減のために機能性展着剤スカッシュの加用が必要です。しかし、これらの散布がタイリクに及ぼす影響は明らかにされていません。そこで、タイリク成虫に対するインプレッション水和剤とスカッシュの影響について調べました。

その結果、スカッシュ1,000倍液では、補

正死虫率が10.1%となり、やや影響があると考えられました。しかし、インプレッション水和剤、スカッシュ5,000倍液およびインプレッション水和剤にスカッシュを加用した処理液の補正死虫率は低く、タイリク成虫に対する影響は小さいと考えられました。今後は、成虫に比べ影響が大きいと考えられる幼虫に対しても調査が必要であると考えています。

(前環境システム開発室)

中石一英 088-863-4915)

高知県農業技術センターニュース 第50号

平成20年1月1日

農業技術センター

〒783-0023 高知県南国市廿枝1100

TEL (088) 863-4912

FAX (088) 863-4913

農業技術センター山間試験室

〒789-0315 長岡郡大豊町中村大王3523-7

TEL (0887) 72-0058

FAX (0887) 72-1544

<http://www.nogyo.tosa.net-kochi.gr.jp/kikan/kenkyu/sc/home/>

編集発行 高知県農業技術センター

所長 松本 満夫

果樹試験場

〒780-8064 高知市朝倉丁268

TEL (088) 844-1120

FAX (088) 840-3816

<http://www.nogyo.tosa.net-kochi.gr.jp/kikan/kenkyu/kaju/index.htm>

茶業試験場

〒781-1801 吾川郡仁淀川町森2792

TEL (0889) 32-1024

FAX (0889) 32-1152

<http://www.nogyo.tosa.net-kochi.gr.jp/kikan/kenkyu/tya/index.htm>